

中山 良夫(ヴァイオラ)
東京大学文学部、東京藝術大学音楽学部卒業。玉置勝彦、W. プリムローズ、井上武雄、浅妻文樹の各氏に師事。1977年東京都交響楽団に入団。1981、84、87年にリサイタルを開催。1990年2月、作曲家グループ「樹」第9回作品展においてヴィオラのための新作5曲を初演。1998年2月同第10回作品展において鈴木聡「無の構造～ヴィオラと管弦楽のための」を大友直人指揮新星日本交響楽団(当時)と共に初演。1990年より2000年まで<ヴィオラの世界>と題する連続リサイタルを毎年開催。2000年よりはムジカーザにおける「室内楽工房」シリーズを主宰。NHKのFMリサイタルなどにソロ、室内楽で度々出演。2002年6月フォンテックよりCD「カデンツァ～ 20世紀無伴奏ヴァイオラ曲集」をリリース。2008年3月東京都交響楽団を退団し、フリーのヴァイオラ奏者として活動の場を広げるとともに、後進の指導にもあたっている。現在、エラート室内管弦楽団、室内合奏団クレメンティア、弦楽合奏団アカンサスⅡのメンバー、ジャパン・アカデミー・フィルハーモニック顧問。

寺内 智子(ソプラノ)
大阪音楽大学音楽学部声楽家卒業。同専攻科修了。声楽を天野春美、E. ラッティ、伊藤京子各氏に師事。関西二期会研究生を経て、1998年イタリアへ留学。M. フェラーロ氏によるマスタークラス受講。イタリアにてオペラ「ラ・ボエーム」ミミ役、「カプリティ家とモンテッキ家」ジュリエッタ役を歌い好評を得る。帰国後も、神戸アーバンオペラ「フィガロの結婚」スザンナ役をはじめ「愛の妙薬」「カルメン」「魔笛」「ボラーノの広場」「沈黙」などのオペラに出演。第29回イタリア声楽コンコルソ金賞、第20回飯塚新人音楽コンクール大賞、第12回ABC新人オーディション最優秀賞を受賞し外山雄三指揮、大阪フィルハーモニー交響楽団と共演。第16回宝塚ベガ音楽コンクール第2位、神戸灘ライオンズクラブ音楽賞、鳥取県声楽オーディション県知事賞等受賞。2006年、鳥取県知事賞受賞者コンサートで関西フィルハーモニー交響楽団と共演。日本演奏家連盟会員、関西二期会、鳥取オペラ協会会員。

尾前加寿子(ソプラノ)
作陽音楽大学声楽科卒業。モーツァルテウム音楽院(オーストリア)にて学ぶ。坂本朱美、ルドルフ・クノール、村田健司、飯田純子、平野弘子の各氏に師事。1991年帰国記念リサイタル後、リサイタル2回。1996年モーツァルト「レクイエム」ソリスト(米子公演)、鳥取オペラ研究会公演「河童譚」「子うさぎましろのお話」、1998年アザレアのまち音楽祭、鳥取オペラ協会公演「フィガロの結婚」にスザンナ役、2000年「魔笛」公演ではパミーナ役で好演する。国民文化祭とっとり2002オペラ「ボラーノの広場」公演でロザロ役、2007年「コシ・ファン・トゥッテ」でフィオルリージを歌い好評を得る。鳥取県の音楽家たちコンサート出演。現在みずばしろうコーラス、のぞみ会ミルフィーユ指揮者。鳥取ソリスト、鳥取オペラ協会理事。

辺見 康孝(ヴァイオリン)
松江市生まれ。3歳よりヴァイオリンを始める。現代の作品を得意とし、独自の奏法を開発し従来の奏法では演奏不可能な作品もレパートリーとしている。また自ら作曲も行い、ダンサー、美術家、サウンド・デザイナー、舞台俳優などとのコラボレーションは常に好評でその柔軟性は他に類を見ない。2001年より2年間はベルギーのアンサンブルChamp d’ Actionのヴァイオリニスト、帰国後はnext mushroom promotionのヴァイオリニストとして精力的に演奏活動を行う他、ハーピスト松村多嘉代とのデュオX[iksa]では新たな境地を開拓している。またアメリカ、スタンフォード大学などでの現代奏法についてのレクチャーは好評で、作曲家の創作活動に刺激を与え続けている。2004年、Megadisk(ベルギー)よりヴァイオリン・ソロ曲を集めたCDがリリースされた。2005年、next mushroom promotionとしてサントリー音楽財団より佐治敬三賞を受賞。

松村多嘉代(ハーブ)
3歳よりピアノを始める。相愛音楽教室、相愛高等学校音楽科を経て相愛大学音楽学部ピアノ専攻卒業。大学卒業後にハーブを始める。現在フリーランスハーピストとして、ソロ、オーケストラ、妹・松村衣里とのハーブデュオ・ファルファーレ、ヴァイオリニスト辺見康孝氏とのデュオ X[iksa]で国内はもとよりフランス、イタリア、オーストラリア、韓国等において数多くの演奏会に出演。自ら編曲も手掛け、クラシックの名曲や日本の歌、ポピュラー、ボサノヴァなど幅広いジャンルの作品をレパートリーとしている。また新作の委嘱初演なども積極的に行い、ハーブのための新たなレパートリーの開拓にも努めている。2008年11月CD『 X[iksa]』、2009年10月CD『眠れる森のファルファーレ』をリリース。

物語から聴こえてくる音楽がある／音楽から聴こえてくる物語がある

現代音楽家シリーズ 「音の個展Ⅰ」

新倉健 ～物語から聴こえてくる音たち～

「音の個展」とは、湖山池のほとりから国内外にすぐれた作品を発信しつづける作曲家・新倉健の作品を集めたコンサートです。

“物語と音楽”をテーマに、新倉の作曲した音楽が踊られ、演じられるちょっと風変わりなコンサート、そのフィナーレは鳥の劇場の中島諒人の演出による室内オペラ「二つ目の窓」の初演です。聴きどころ、見どころ満載のちょっと贅沢なコンサートをどうぞお見逃し無く。

「歌の祭り」(1999)

バレエ「忍冬」より

「すいかずらの歌」「頌歌～池澤正子さんを讃えて～」(1994)

「ニライカナイの彼方へ

～故・福島雄次郎先生に捧げる～」より第1章DINGON(伝言)(2006)

音の絵本Ⅱ「よだかの星」(作 宮沢賢治)(2008)

オペラ「窓」より「二つ目の窓」(台本:中村敬一 演出:中島諒人)(初演)

〈招待作品〉武中 淳彦 作曲：『剣を鍛える話』より

「インテルメッツォレチタンド」(2006)

「白雪姫」の音楽(2008)

辺見 康孝 作曲：「耳なし芳一幻想」(委嘱初演)

ヴァイオラ独奏:中山 良夫

ダンス:三島 麻美

ソプラノ:尾前加寿子

ハーブ:松村多嘉代

ヴァイオリン:辺見 康孝

弦楽四重奏団「鳥」

朗読:中川 玲奈

チェロ:松岡 陽平

ピアノ:中橋 芳恵

【出演】 女 :寺内 智子

母 :尾前加寿子

【演奏】 指揮:武中 淳彦

弦楽四重奏団「鳥」

ハーブ:松村多嘉代

合唱:合唱団「窓」

海和 伸子(弦楽四重奏団「鳥」第一ヴァイオリン)
3歳よりヴァイオリンを始める。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て東京藝術大学器楽科卒業。東京文化会館新進音楽家デビューコンサート出演。津田ホールでリサイタルを行う。1996年東京都交響楽団入団。2001年スペイン演奏旅行を機に東京シンフォニエッタのメンバーとなり現代音楽の活動を始める。2006年作曲家梶場富美子氏の新作無伴奏ヴァイオリンのための「ルブリョフの扉」を初演。2008年フランスのプレゾンス音楽祭、2009年エジプトのアレキサンドリア現代音楽祭に出演。オーケストラ、ソロ、室内楽、レコーディング等の演奏活動を行う。これまでに、足立佳代子、田中千香士、澤和樹、清水高師の各師に師事。現在、東京都交響楽団団員、東京シンフォニエッタ、室内合奏団クレメンティアメンバー。

横山和加子(弦楽四重奏団「鳥」第二ヴァイオリン)
桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽部卒業。1998年同大学研究科修了。1993年多摩フレッシュ音楽コンクール入選。第1回江藤俊哉ヴァイオリンコンクール入選。サイトウ・キネン・オーケストラ’97ヨーロッパツアーに参加。宮崎国際室内楽音楽祭参加。2001年、世田谷美術館プロムナードコンサートにてリサイタル。2006年、川口リリアの「ブラームスの室内楽」シリーズで、ブラームスのヴァイオリン・ソナタ全曲リサイタル。2006年より東京都交響楽団団員。これまでに、村井陽子、安田明子、江藤アンジェラ、江藤俊哉の各氏に師事。

松岡 陽平(チェロ)
東京芸術大学附属高校を経て桐朋学園音楽科ディプロマコース修了。1980年より6年間室内合奏団「東京ソリスト」の首席奏者を務めた後フリーのスタジオミュージシャンとして、またシャンソンやタンゴのバックバンドなどで活動。また現代音楽の分野でも、篠崎功子の弦楽四重奏「スブラッシュ・カルテット」や近藤譲の現代音楽演奏集団「ムジカ・プラクティカ」のメンバーとして数多くの初演、日本初演に参加し、メキシコ、デンマークの現代音楽祭にも出演。91年東京都交響楽団に入団、現在副首席奏者。オーケストラのかたわら各地でソロ、室内楽活動、またオリジナル楽器によるバロック音楽の演奏活動も行う。ジャパン・チェンバー・オーケストラのメンバー。故郷江泰氏、青木十良の各氏に師事。

三島 麻美(ダンサー)
7歳よりジャズダンスを始める。鳥取大学教育地域科学部芸術表現コース舞踊専攻卒、モダン、ストリート等ジャンルを問わず研鑽。合唱、オペラ、演劇など各種舞台に振付、出演もしている。

合唱団「窓」(合唱)
鳥取県内で合唱団体に所属し合唱活動を行っているメンバーで構成されている。オペラ「窓」の上演のために結成された新しい合唱団。12月23日には鳥取大学アートプラザでクリスマスコンサートを開催予定。

中川 玲奈(朗読)
1975年生、宮崎県出身。1998年にジンジヤントロプスボイセイ入団以降、中島諒人演出作品に出演。2006年、鳥の劇場立ち上げから参加。創作、アウトリーチ、劇場運営に従事する。主な出演作品は『剣を鍛える話』『白雪姫』『かもめ』などがある。

武中 淳彦(指揮、ヴァイオリン、ヴィオラ)
1962年宝塚生まれ高知市出身。ウィーン音楽大学にてA.アレンコフ(Vn)I.ヴインツァー(Va)他に師事。ヴァイオリニスト、ヴィオリスト、指揮者としてヨーロッパ各地で活躍。1991ブラハに赴きB.ノヴォトニーの内弟子としてVn、室内楽、指揮法を修め同氏のアシスタントとしてブラハ室内管弦楽団をはじめチェコの名門オーケストラの副指揮を歴任、1993年帰国後も独奏、室内楽、指揮の分野で内外の様々な音楽祭、演奏会、レコーディング等に参加。AFJAMH仏楽友協会理事JFCH本作曲家協議会会員。

中橋 芳恵(ピアノ)
国立音楽大学ピアノ教育専攻卒業。東京ミュージック&メディアアーツ尚美ディプロマ学科ピアノコース修了。ピアノを三富二葉、和久利幹子、故ウラジミール竹ノ内、窪田隆、酒匂淳の各氏に師事。声楽を生原幸枝、瀬川武、常松喜恵子の各氏に師事。現在、後進の指導、伴奏やソロ等の演奏活動を行いながら、今春より鳥取大学大学院地域学研究科地域創造専攻に在籍、楽曲分析や作曲法などを学んでいる。

「キラリ☆アートプロジェクト」とは、地域で活動するアーティストが、自らの企画力や運営力を養うとともに、県民に魅力的な芸術文化の鑑賞機会を提供するため、企画公募を経て、鳥取県総合芸術文化祭実行委員会から委託を受けて実施する事業です。

中川 玲奈 (朗読)

三島 麻美 (振付・ダンス)

都合により出演者・作品等が変更になる場合がございます。予めご了承ください。